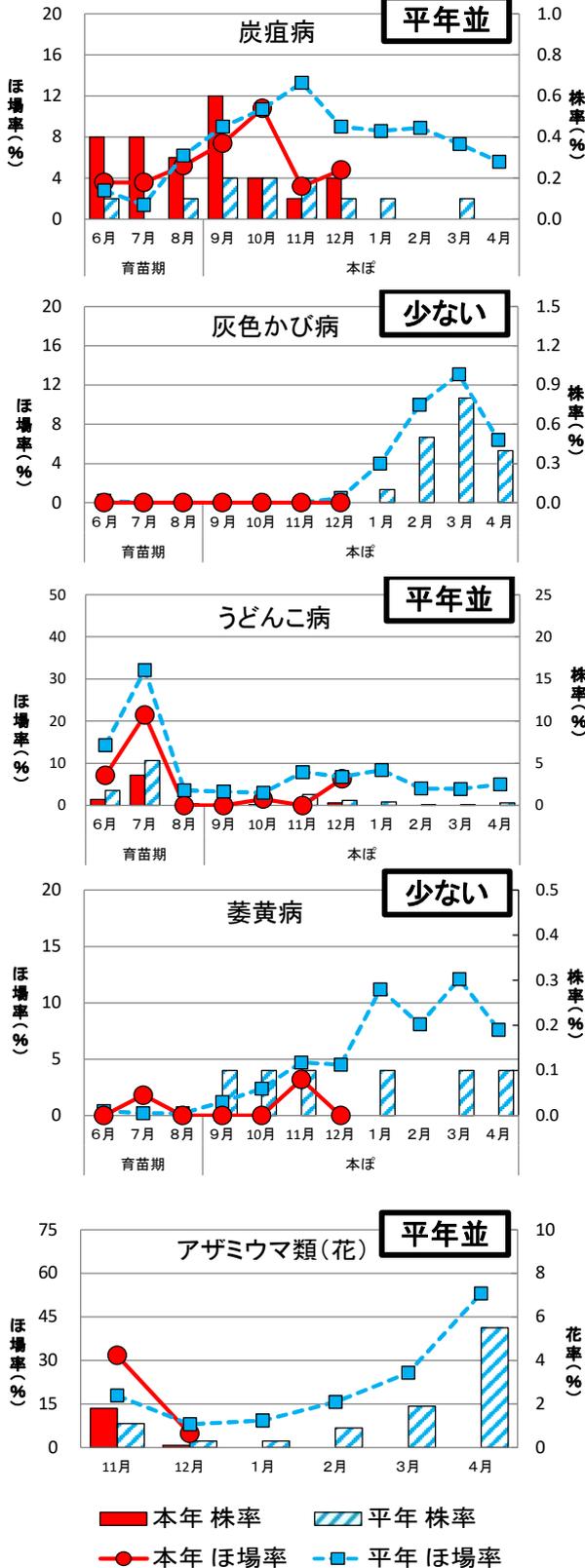


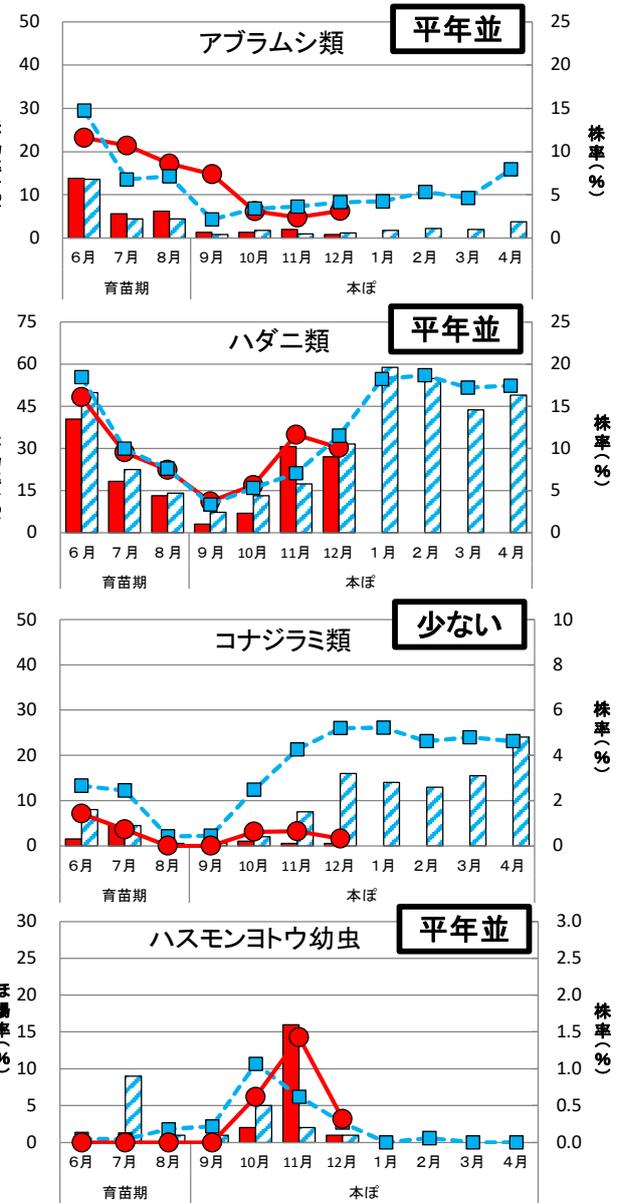
いちご病害虫情報第7号 (12月)

令和6(2024)年12月20日
栃木県農業総合研究センター
環境技術指導部

■ 病害虫の発生状況 【総調査ほ場数 63か所】



※ほ場あたり25株調査
※株率(%) : 発生株数 / 調査ほ場数 × 25株
※ほ場率(%) : 発生が確認されたほ場数 / 調査ほ場数



■ 今月の防除ポイント

— うどんこ病の防除対策 —
多発してからの防除は難しいため、予防対策と初期防除を徹底しましょう。

- 1 下葉を除去し株元の風通しをよくするとともに、かん水過多にならないように注意する。
- 2 ベルクートフロアブル(RACコード F:M7)等を予防的にローテーション散布する。
- 3 発生初期のうちに、パンチョTF顆粒水和剤(F:U6・3)等を葉裏にもよくかかるように散布する。

■ 今月のトピックス 灰色かび病

被害症状について

主に果実に発生し、がく、果梗、葉、葉柄など地上部のあらゆる組織を侵します。はじめ淡褐色の病斑を生じ、急速に拡大して果実を軟化腐敗させ、表面に灰色粉状のカビを密生します。病斑上に形成される胞子が飛散して、空気伝染し、蔓延します。

本病は、気温が20℃前後で湿度が高い場合に発病しやすく、施設内の多湿、朝夕の冷えこみによる植物体の結露が発生を助長します。また、例年1月頃から発生し始め、3月に最も発生が多くなる傾向があるため、日頃からほ場内をよく観察し、発生を見逃さないように注意しましょう。

防除対策について

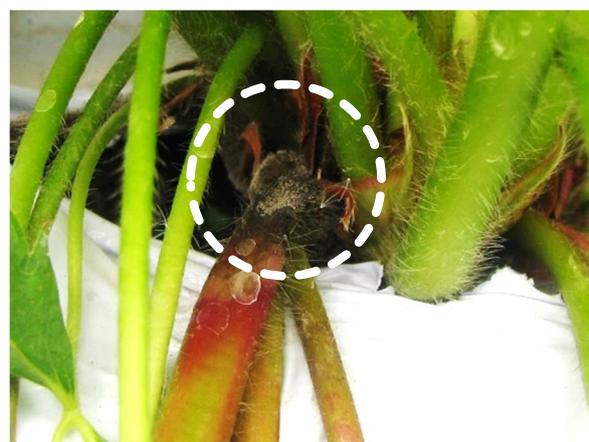
- 多湿条件で発生しやすいので、下葉を除去し株元や果房の風通しをよくする。
- 曇天時のかん水過多に注意し、保温状況を確認しつつ、換気時間を確保することで、ハウス内の湿度を下げる。
- 発病した果実や果梗、枯死した部位は伝染源となるので、ほ場を良く観察し、見つけたら速やかに取り除き、施設外で処分する。
- とちあいかの栽培において、芽数を多く残すと内側に伸びやすいため、花房を外側に向け、果実が取り残されないように注意する。
- 薬剤散布は予防主体に行う。薬剤耐性菌が発生しやすいため、RAC コードの異なる薬剤をローテーション散布する。



果実の症状



果実・がくの症状



葉柄基部の症状